

■資料紹介『蓬萊百人一首宝文庫』■

5月27日の「百人一首の日」にちなんで、『蓬萊百人一首宝文庫』を紹介します。
 江戸時代から明治時代にかけて、女子の教養に必要な知識として重視された百人一首は、多くの女子用教科書に収載されました。『蓬萊百人一首宝文庫』は1895年（明治28）に発刊された教科書で、百人一首だけではなく、心得ておくべき教訓や、教養なども書かれています。
 坪田仁兵衛家文書(当館寄託) C0005-00735



■こいのぼり流し■

県民の皆様から寄贈されたこいのぼりが、昨年引き続き、中庭を泳いでいます。
 子どもたちの健やかな成長を願うとともに、来館された方に見て楽しんでいただいております。



日時：4月16日（土）～5月25日（水）
 場所：福井県立図書館中庭
 主催：「こいのぼり流し in 県立図書館」実行委員会

■ちょっと昔の5月風景■



▲足羽山探鳥会



▲三国祭り 昭和55年 70457

■ご利用案内■

開館時間 午前9時から午後5時まで

■フレンドリーバスをご利用ください■

■講座案内■

◎フィアラ先生の世界をつなぐゼミナール◎
 『平家物語』の異本を読む
 第1回 祇園精舎、わが身栄華、妓王

日時：5月21日（土）13:30～15:00
 講師：カレル・フィアラ
 （文書館副館長・福井県立大学名誉教授）
 会場：文書館研修室
 定員：40名



平安末期になると、王朝貴族の力は衰え、平家と源氏の武将は天下について争います。『平家物語』の序は世の無常を語り、平清盛の傲慢と悪行を訴えます。

*『平家物語 上』佐藤謙三 校注（角川ソフィア文庫）（ISBN4-04-400701-2）を用意して、受講してください。
 *事前の申込みが必要です。
 *電話・FAX・メールにてお申し込みください。
 電話（0776）33-8890 FAX（0776）33-8891
 E-mail bunshokan@pref.fukui.lg.jp

■5月の開館日カレンダー■

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

は休館日です



■今月の展示■

6月9日の国際アーカイブズの日*にちなみ、資料の素材として広く使われている和紙に関する展示を開催し、和紙の生産、再生・再利用をめぐる資料を紹介します。

*国際アーカイブズの日…文書や記録を保存し、その利用を図ることの大切さを考える日。

1948年（昭和23）6月9日、国際公文書館会議（ICA）の発足にちなんでいます。

和紙も昔から数奇な運命をたどっていたのじゃな。



紙を漉く図（『越前紙漉図説』より）

福井県文書館月替展示 2016.4.16-6.22

和紙-生産と再生のエピソード-

越前各地の和紙の生産などを示す資料のほか、和紙の一生、いわば「和紙のライフサイクル」に関する資料とエピソードを紹介します。

紙をつくる

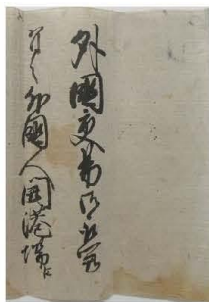
1872年（明治5）9月、今立郡岩本で奉書紙を漉いていた小林忠蔵は、翌年のウィーン万国博覧会への出品にむけ、上の「紙を漉く図」などを含む和紙生産の報告書『越前紙漉図説』（国立国会図書館蔵）を博覧会事務局に提出しました。

これは今立郡五箇の和紙が、当時の日本を代表する工芸品であったことを示すエピソードです。今立は紙祖神「川上御前」の古い伝承をもち、中世には産地として確立していました。そして、今立の和紙づくりの伝統は、近世を経て現代に受け継がれています。

小林忠蔵の報告書から約140年。今立など越前各地の和紙づくりの歴史をものがたる資料を展示します。



福井藩書札（天保11）



漉紙の資料（部分）
（『外國交易口書』開行記録）

和紙の再生の歴史は古く、例えば天皇の略式命令を伝えた綸旨は、漉返した再生紙（薄墨紙、宿紙）を使用するのが慣例でした。和紙の再利用もさかんに行われ、反故紙の裏面（紙背）も古くからしばしば利用されました。また反故紙は、襖や屏風の下張りに使われました。

紙が物資として貴重であった時代には、いわゆる反故紙の「リサイクル」「リユース」もさかんに行われていたとみられます。展示では、江戸時代の漉返紙や下張紙の資料のほか、江戸時代から明治時代の「紙のリサイクル事情」をうかがうことができる資料を紹介します。

紙を再生・再利用する